

## 事業所自己評価結果

まなびのひろば 幕山教室 令和 4年 3月

		チェック項目	工夫している点、改善目標等
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	療育がスムーズに行えるよう、パーテーション等を使用して視覚的配慮やレイアウトなど利用者が集中できるよう工夫している。コロナ対策として、一部屋の人数の配慮も行っている。
	2	職員の配置数は適切であるか。	基本的に個別療育が提供できるよう配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。	子どもたちが主に使用するところはバリアフリー化され、環境調整を適切に行っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、広く職員が参画しているか。	業務改善をしっかりと行うため、定期的にミーティングを行っている。また、全体ミーティングを行い、トレーニングや研修を継続的に行っている。
	5	保護者の方等向け評価表を活用する等により、アンケート調査を実施して保護者の方等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	アンケートの実施や個別面談時、普段の送迎時などに保護者の要望を聞き、必要に応じて改善をしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	事業所のホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	関係連携機関から当事業所への意見等を聞き、必要に応じて改善をしている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	事業所内外での研修を定期的実施している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、お子さまと保護者の方のニーズや課題を客観的に分析した上で、計画を作成しているか。	契約時、面談時または送迎の際に聞き取った保護者のニーズ等に基づきアセスメントを行い、支援計画に反映させるようにしている。
	10	お子さまの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	利用スタート時には、事業所で作成したアセスメントツールをもとに保護者に聞き取りを行っている。今後は、中間評価にも活用できる標準化されたアセスメントツールの作成および活用も検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	個別に行われるプログラムが円滑に進むように毎回の記録を教室内で確認し、次回利用時に反映できるようにしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	個々の課題に合わせて毎回のプログラムを設定している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。	基本的な設定は放課後と学休日では変わらないが、利用者に変化がないか確認し、細やかに支援できるように努めている。
14	お子さまの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる計画を作成しているか。	基本的には個別活動だが、休憩時間やイベントの際などには集団活動も計画し、活動を取り入れている。	

## 事業所自己評価結果

まなびのひろば 幕山教室 令和 4年 3月

適切な支援の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	毎日、療育前後に全員でミーティングを行い、情報を共有するとともに支援のポイントや課題などを話し合い、次回の療育や個人の計画に反映できるようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	記録の記入方法などマニュアルを作成し、子どもたちの様子や支援のポイントや意図が分かるように記録している。
	18	定期的にモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断しているか。	定期的なモニタリングを行い、それに基づき事業所内カンファレンスを実施し、支援計画の修正や継続の検討をしている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	ガイドラインを参考にし、個々の子どもの状況に応じて創意工夫を図りながら支援をしている。
関係機関や保護者との連携関係や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にそのお子さまの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	子どもの特性や支援内容を理解している職員が参画している。
	21	学校との情報共有、連絡調整を適切に行っているか。	必要に応じて、学校連携を図り、情報や具体的な支援の方向性を共有している。
	22	医療的ケアが必要なお子さまを受け入れる場合は、お子さまの主治医等と連絡体制を整えているか。	現在は医療的ケアが必要な利用者はいないが、必要となった時は連絡体制を考え、整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	必要に応じて、情報共有し相互理解に努めるようにしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	現在までにはないが、今後必要時には情報提供等行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	現在までにはないが、今後必要時には連携したり、研修を受けることも検討していく。
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	定期的に行われる協議会に参加している。
	27	日頃からお子さまの状況を保護者の方と伝え合い、お子さまの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	送迎時にフィードバックの時間を設けて、情報共有を行い、共通理解に努めている。
	28	保護者の方の対応力の向上を図る観点から、保護者の方に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか。	送迎時や面談時に個々の支援内容を伝え、理解を深めてもらうよう努めている。

## 事業所自己評価結果

まなびのひろば 幕山教室 令和 4年 3月

保護者への説明責任等	29	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	契約時に説明を行い、必要時にはその都度お伝えしている。
	30	保護者の方から子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	日々のフィードバックや面談で保護者の困っていることなど相談を受けた際は、必要に応じてできる限り情報の提供や助言をさせていただいている。
	31	お子さまや保護者の方からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、お子さまや保護者の方に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	苦情相談があった場合には、状況確認等も含め速やかに対応し、「苦情相談対応記録」を作成の上、全職員で共有し、再発予防に努めている。
	32	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連携体制等の情報をお子さまや保護者の方に対して発信しているか。	システムや教室掲示を活用し、情報発信を行っている。講演会やイベント等の案内など必要に応じて配布している。
	33	個人情報に十分注意しているか。	職員間で意識の統一を図るとともに、施錠できる場所で管理している。
	34	障害のあるお子さまや保護者の方との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	個々に応じて分かりやすく伝えられる方法を選び、配慮している。
	35	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	地域の行事への協賛等に取り組んでいる。フォーラムなどを開催し、啓発活動を行っている。
非常時等の対応	36	緊急時対応マニュアルなどを策定し、職員や保護者の方に周知しているか。	マニュアルを作成し、教室内に掲示し、職員間の意識の徹底を図っている。
	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	マニュアルを作成し、定期的に避難訓練を行っている。
	38	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	外部研修に参加したり、定期的に事業所内外で研修を行っている。
	39	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	日々の記録やミーティングを活用し、情報共有を行い事故防止に努めている。